

まごこ
～孫子の代まで引き継げるまちをめざして～

もい
本庄早稲田の杜づくり



まごこ
～孫子の代まで引き継げるまちを目指して～

本庄早稲田

本庄市は、埼玉県の西北部で首都圏 80 kmに位置し、上越新幹線、関越自動車道をはじめJR高崎線、JR八高線、国道 17 号などが東京と上越、北陸地方を結ぶ北関東の玄関口にあたる地域です。本市では、自然と心のふれあい、安全と安心の提供、地域の活性化と満足度の高いサービスの提供、人材育成と協働の推進、交流の継承と魅力の充実をまちづくりの基本理念としています。

現在、上越新幹線“本庄早稲田駅”を中心とした、早稲田大学本庄キャンパスを含む早稲田リサーチパーク地区や、新たなまちづくりが行われている本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業を包含するエリアを、本庄市の新たな拠点地域とし、本庄市として、

- 新たな顔としてのまちづくり
- 豊かな自然環境と調和したまちづくり
- ユニバーサルデザインのまちづくり

の3つをコンセプトとする『本庄早稲田の杜づくり～孫子の代まで引き継げるまちを目指して～』と称し、「杜づくりは、人づくり」をモットーに、市民、民間事業者、行政機関が協働してまちづくりを推進していきます。

新たな顔
としての
まちづくり

豊かな
自然環境
と調和した
まちづくり

ユニバーサル
デザインの
まちづくり

「杜（もり）づくり」とは……！？

「杜」とは、元来、山野に自生する落葉果樹を意味しますが、広義では「鎮守の杜」などと使われ、そのまちに暮らす人々が協力し合い、長い年月をかけて育む緑を意味します。

「本庄早稲田の杜づくり」とは、緑濃い大久保山や豊かな田園風景など、自然環境に恵まれたここ本庄の地に、環境と調和した新たな市街地が築けるよう、市民、民間事業者、行政機関が一緒になってこれに取り組み、“まち”を育んでいくことを意味します。

もり

の杜づくり

◎新たな顔としてのまちづくり

本庄の歴史を振り返れば、古くは鎌倉街道、中山道、利根川の河岸など、交通の要衝として栄えてきました。現在では、JR上越新幹線本庄早稲田駅をはじめ、関越自動車道本庄児玉ICがあり、今後、首都圏中央連絡自動車道や北関東自動車道の開通、国道17号バイパス（本庄道路）なども含め、更なる交通の要衝となり得る地域です。これらのポテンシャルを活かし、早稲田大学との連携も深めながら、産業・業務の誘致を進め新たな本庄の顔としてのまちづくりを進めます。



◎豊かな自然環境と調和したまちづくり



地球温暖化が懸念されている現在、豊かな森林が残る早稲田大学の本庄キャンパスのある大久保山や美しい田園風景が広がる地域であり、これらの環境や景観と融合することはもとより、民間の知恵や技術を活かした、次世代をリードする環境調和型のまちづくりを推進します。

◎ユニバーサルデザインのまちづくり

障害を克服し、盲目の国学者として、日本の宝である群書類従を編纂した塙保己一を輩出した地域として、障害のある人々や子どもたち、高齢者なども含め、安全で安心な生活が送れるよう「いつでも誰でも」をキーワードとしたユニバーサルデザインのまちづくりを進めます。



そうけんぎょう はなわ ほきいち
総検校 塙保己一像



まごこ
～孫子の代まで引き継げるまちを目指して～

もり 本庄早稲田の杜づくり



現地航空図



中央通り線から早稲田リサーチパークを望むイメージ図

整備イメージ図

地区の整備イメージ



本庄早稲田駅南口広場イメージ図

本庄早稲田駅北口広場イメージ図



本庄早稲田駅



早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター



インキュベーション・オフィス・キャンパス本庄早稲田



国際情報通信研究センター・理工学総合研究センター・本庄研究棟



早稲田大学 芸術科学センター



早稲田大学 本庄高等学院

本庄市の歩み

豊かな自然環境に恵まれたこの地が“本庄”と呼ばれるようになったのは、室町時代のことです。江戸時代に入ると中山道が整備され中山道最大の宿場町となり、明治時代に入ると繭の一大集散地として発展し“日本一の繭のまち”と呼ばれるまでに変容しました。

平成18年1月10日に旧本庄市、旧児玉町が合併し、現在の本庄市となり、人口8万3千人の都市となりました。本地域はJR高崎線、JR八高線、上越新幹線、関越自動車道本庄児玉ICや国道17号、254号、462号など主要道が縦横に走り、平成16年3月には上越新幹線本庄早稲田駅が開業。東京駅まで約50分に短縮され、都心と上信越方面を結ぶ交通の要衝となっています。

また、歴史的人物としては、盲目の国学者・埴保己一が本庄市で生まれました。保己一は、7歳の時に病で視力を失い、15歳で江戸に出て賀茂真淵らに国学を学び、幕府保護のもとに江戸番町に和学講談所をたて、多くの門人を養成しました。さらに、「群書類従」という一大叢書を完成させるという日本史上類い稀なる偉人としてその名を残しています。

本庄地方拠点都市地域

現在の本庄市、美里町、神川町、上里町の1市3町は、平成5年8月に地方拠点法により「本庄地方拠点都市地域」として指定され、平成7年3月に基本計画が承認されました。本地域では、環境など新たな産業や都市機能を集積するとともに、豊かな自然環境を活かした特色ある地域づくりを推進し、「職・住・遊・学」の機能を備えた魅力ある拠点都市地域の形成を図ることを目指しています。

このため本地域が目指す将来像を「彩の国本庄科学田園都市（本庄テクノガーデンシティ）」とし、科学技術革新を先導する国際的な拠点づくり、魅力と活力ある地域活動を支える都市基盤の整った地域づくり、豊かな文化・自然を活かした定住環境を備えた地域づくり、人口減少・高齢化・少子化に対応した持続可能な地域づくりを目標と定め、地域整備を推進しています。



本庄早稲田駅



関越自動車道本庄児玉IC



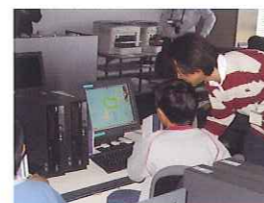
※鉄道利用による概ねの所要時間を示しています。



早稲田リサーチパーク地区

早稲田大学のある「本庄早稲田駅」南側の緑豊かな早稲田リサーチパーク地区では、科学技術を先導する研究・開発・交流の拠点づくりを目指し、早稲田大学の教育・研究施設の活用を図るとともに、研究施設や交流施設の整備を進め、本庄早稲田駅周辺土地画整理事業など一体となった地域形成づくりを推進しています。当地区には、「早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター」や「インキュベーション・オン・キャンパス本庄早稲田」、「早稲田大学 芸術科学センター」などの“知の創造を支え、成長する施設”が開設されています。

これらの知的財産を活かし、「産・学・公・地域」の連携による学術研究都市づくりの推進を図ることを目的に、財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構が設立され、新産業・新技術の創出を一貫支援する事業プロデュース、次世代地域づくりに向けた“知の協働”のプロデュースなど、成果のクオリティを重視したプロジェクトマネジメントを行っています。



PCを使って映像で遊ぼう



企業セミナー



里山塾



早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター & インキュベーション・オン・キャンパス本庄早稲田



本地域の7つの高校の生徒と首長とがまちづくりについて語り合う「セブンハイスクールサミット2008in本庄」

本庄早稲田駅周辺土地画整理事業

本庄地方拠点都市地域の先導的地区として、「本庄早稲田駅」周辺の約65haを先行整備地区として位置づけ、独立行政法人都市再生機構が施行者となり整備を進めている事業です。この事業では、市民参加によるワークショップの開催などにより、地域と連携した人と環境にやさしいまちづくりを目指しています。本事業により鉄道・道路の結節機能を高め、「本庄早稲田駅」を中心に商業・業務用地、産業用地を配置し、その周辺に住宅用地を配置します。



中央通り線イメージ図



JR主催による「植樹祭」(マリーゴールドの丘)



ワークショップ風景



男堀川調整池イメージ図



まごこ
～孫子の代まで引き継げるまちをめざして～

もい
本庄早稲田の杜づくり



本庄市役所 拠点整備推進局

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3-5-3 TEL. 0495-25-1111 (代表)

<http://www.city.honjo.lg.jp/>